



小中学生による建設工事風景図画作品

常陸太田市立金砂郷中学校／田所 来望さんの作品

△
主
な
内
容
▽

- ▼ 関東地方整備局から感謝状贈呈
- ▼ 合同企業説明会を開催
- ▼ 建設業活性化フォーラムを開催
- ▼ 現場見学会・現場実習充実へ反省会・検討会

本会ホームページに「茨建協ニュース」の内容を掲載しています。ご活用ください。

本会はコンプライアンス(法令遵守)をさらに徹底します

発行 (一般社団法人) 茨城県建設業協会

〒310-0062 茨城県水戸市大町 3-1-22

電話 029-221-5126 (代)

H P <http://www.ibaken.or.jp/>

編集 日本工業経済新聞社・水戸支局

本会に関東整備局から感謝状 昨年の台風被害への対応業務で



石津会長（前列左から5人目）が代表して感謝状を受け取りました

本会が昨年の台風15号災害で行った対応に対しまして、2月19日に国土交通省関東地方整備局長から感謝状が贈呈されました。本会では、災害協定に基づく災害対応業務の調整、ブルーシート、土のう袋、トラロープなどの調達・運搬を行いました。

本会では、台風15号によって甚大な被害を受けた千葉県を支援するため、9月15日と16日、災害協定に基づく関東地方整備局からの要請を受けて千葉県に支援物資を届けました。支援した物資はブルー

シート3071枚、土のう袋2万6120枚、ロープ1万7950m。全12支部から集め、15日に館山市、16日に鋸南町と南房総市に石津健光会長自らがトラックで搬送しました。

贈呈式で石原康弘関東地方整備局長は「一連の災害において、国民の生命・財産を守る国交省の使命、建設業をはじめとする皆さまの取り組みは、大きく評価されたと言えます。災害が発生した際には引き続き皆さまのご支援、ご協力を」と感謝を表しました。

常陸大宮支部にも県から感謝状

一丸となって応急復旧対応



高野支部長（左から2人目）が代表して感謝状を受け取りました

常陸大宮支部（高野潔支部長）に対しまして、茨城県土木部常陸大宮土木事務所から2月13日、感謝状が贈呈されました。昨年の台風19号豪雨によって被災した河川や道路などの緊急復旧工事に貢献したことに対するものです。

松橋秀広技監兼所長は「昼夜・休日関係なく対処していただき、感謝しています」とあいさつ。

高野支部長は「支部一丸で災害復旧に取り組みました。地域の安全安心の一端を担う者として日ごろから研さんしていきたい」と述べました。

高校生などに建設業をPR

合同企業説明会、500人以上が参加

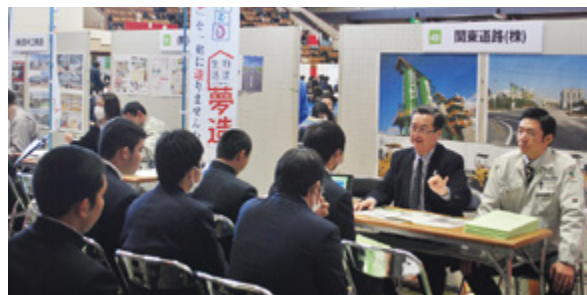


来場した500人以上の高校生などに建設業をPR

本会は茨城県建設産業団体連合会などと共に、高校生や大学生などを対象とした「建設業合同企業説明会」と「建設業界研究セミナー」を2月21日、水戸市新原の県武道館大道場で開催しました。参加した54社は、ブースなどを訪れた約510人の生徒たちに建設業の魅力や自社の職場環境、求めている人材像などを説明し、入職を訴えました。

合同企業説明会は高校2年生と保護者を対象に、企業ごとのブースで実施。5回に分けて行いました。

業界研究セミナーは大学生や短大生、専門学校生、一般人が対象。企業ごとのブースによる対面形式で建設業の説明やアピールを実施。各社の担当者はパンフレットやタブレットなどを使って自社の説明などを行い、建設業をPRしました。



「担い手確保」テーマに

建設業活性化フォーラム

本会は茨城県土木部との共催で令和元年度の建設業活性化フォーラムを1月24日、水戸市青柳町の茨城県建設技術研修センターで開催しました。テーマは「建設業の担い手の確保」。若手定着の事例や新・担い手3法などを研修しました。

講演では「実践例に見る建設産業の若手社員の定着率向上」について(株)建設経営サービス提携講師の廣津榮三郎氏(ヒロT&T(株))が説明。

廣津氏はコミュニケーションの重要性を説明するとともに、若者に魅力ある職場づくりを阻害している項目を挙げ、スキル向上、職場環境向上、人間関係向上への取り組みが重要と指摘しました。

さらに建設業の収益向上のためには、職場で一番の作業員や事務を褒め、そのレベルまで全員の作業効率を上げることが大切などと若者定着のポイントを紹介しました。



若手社員の定着率向上策などを研修しました

その後は「新・担い手3法」について関東地方整備局建政部建設産業第一課の北埜順課長が、改正建設業法を中心に留意点などを解説。

さらに「建設業に関する労働時間制度」について茨城労働局労働基準部監督課の熊岡秀織主任監察監督が紹介しました。

現場見学
現場実習

建設業のイメージ向上

反省会
検討会

本会は、昨年7月から11月まで実施した学生の建設現場見学会と建設現場実習の反省・検討会を2月13日に水戸市青柳町の茨城県建設技術研修センターで開催しました。建設未来協議会の会員や高校・専門学校の教員が出席し、見学会や現場実習によって建設業に対するイメージが良くなったことが報告されました。

令和元年度は現場見学会を9月から11月まで14回行い、10校から549人が参加。昨年から20人増加しました。内訳は高校7校328人、専門学校2校167人、大学1校54人。

現場実習については、延べ49社に7月から10月まで9校から210人が参加しました。昨年からは40人増えています。内訳は高校6校から98人、専門学校3校から71人。

現場実習に参加した生徒のアンケート結果によると、建設業に従事したいと思っていた生徒は、実習



入職促進への取り組みなどを話し合いました

に参加する前は全体の52%でしたが、実習後は70%に増加。実習によって建設業へのイメージが「良くなった」は45%、「やや良くなった」は32%と、80%近くが良くなりました。

現場実習を受け入れた企業からは、実習生を卒業後に企業に受け入れるという回答も88%に達しました。

その後は見学会や実習の感想、求人状況、資格取得への取り組みについて意見を交わしました。

ICT活用を推進

アイコン連絡会



本会と国土交通省関東地方整備局、茨城県で組織している「茨城県i-Construction推進連絡会」が1月23日に水戸市の常陸河川国道事務所で開催されました。関東整備局の県内事務所がICT活用工事の適用状況を説明。県も発注状況などを紹介しました。本会ではICT関連講習会なども取り組んでいることを説明。今後もICTを推進していくことを確認しました。

BCP作成を研修

支援セミナー



本会は2月17日、事業継続計画（BCP）支援セミナーを水戸市の茨城県建設技術研修センターで開催しました。新規策定支援と継続策定支援に分かれ、約40社の担当者が参加。国土交通省関東地方整備局の事業継続力認定制度の概要、BCP文書の作成、書類審査、面接審査のポイントなどを研修しました。

働き方改革の推進へ

セミナーでポイント研修



本会は、建設業における働き方改革セミナーを2月7日、水戸市の茨城県建設技術研修センターで開きました。参加者は労働時間や年次有給休暇制度などを確認。講師のアスミル社会保険労務士事務所代表の櫻井好美氏は、働き方改革は建設業でも例外ではないため、現実を受け止め、優先順位を決めて取り組んでほしいと望みました。

2級経理士検定合格へ

受験対策講座



本会は、建設業経理士検定試験（2級）の受験対策講座を1月23日から2月10日まで水戸市の茨城県建設技術研修センターで開催しました。経理事務士3級の知識を基礎に、建設業会計の基本原則、記帳の手続き、決算書の作り方、原価計算などを研修。検定試験の合格を目指す参加者が熱心に受講しました。

令和2年度事業を協議

土木委員会



土木委員会（梅原基弘委員長）が2月25日に水戸市大町の協会本部で開かれ、令和元年度の事業報告が行われたほか、令和2年度の事業計画案を協議しました。20年度も建設工事の生産システムの諸問題、技術者の資質向上、社会資本の維持管理分野、災害への対応などに取り組む計画です。発注機関や関係団体との意見交換なども予定しています。

水戸支部
活動報告

最新の焼却施設 工事を視察



水戸支部（尾曾正人支部長）では、水戸市建設業協同組合（秋山進理事長）との共催で水戸市発注の「水戸市新清掃工場建設工事」の現場で優良現場研修会を2月13日に行いました。約40人が参加し、現場の担当者から工事概要などの説明を受けた後、ごみ焼却施設とリサイクルセンターのプラットホームをはじめ、ボイラー設備や制御室などを視察しました。

筑西支部・常総支部
活動報告

下館河川と 意見交換



筑西支部（柴勝支部長）、常総支部（中川原勇支部長）では、国土交通省下館河川事務所との意見交換会を2月6日、筑西支部会館で開きました。下館河川からは事業概要や災害復旧工事などの説明が行われ、支部からは地元業者の受注機会の拡大、確保などを要望。そのほか設計変更、週休2日制などについて話し合いました。

境支部
活動報告

ICT施工などで 意見交換



境支部（新井孝支部長）では、茨城県境工事事務所との意見交換会を2月10日、同事務所で開催。ICT活用促進工事の種類や評価方法、ICT建設機械による情報化施工の推進などを議論しました。また完全週休2日制の工事や道路・河川維持修繕工事について話し合いましたほか、豪雪時の対応を確認しました。

公共事業費は1274億円、0.7%増

茨城県 令和2年度当初予算案

茨城県の令和2年度当初予算案がまとまりました。公共事業費は1274億1900万円で前年度比0.7%の増。そのうち国補分は同0.3%減の1020億7100万円、県単分が同5.1%増の253億4800万円。

主な事業では、東日本大震災関連の緊急輸送対策強化事業に166億3500万円、国土強靱化3カ年緊急対策に対応した防災・減災事業に122億3600万円、その他防災・減災対策事業に47億6200万円、関東・東北豪雨関連の治水直轄事業負担金に38億2800万円、インフラの長寿命化対策事業に34億9200万円を盛り込んでいます。

新規では、アクアワールド県大洗水族館新館整備事業に3億4700万円、県民の森等魅力向上事業で基本構想に2000万円を計上しました。

一般会計につきましては1兆1632億1900万円で、前年度比2.4%増の過去最大となっています。

令和2年度当初 公共事業費 内訳表

(単位：百万円、%)

〈一般会計〉				
区分	平成31年度	令和2年度	増減率	
国補	土木	79,066	80,743	102.1
	農地	16,419	15,888	96.8
	農林	-	3	皆増
	企画	36	14	38.9
	計	95,521	96,648	101.2
県単	土木	22,193	23,700	106.8
	農地	1,597	1,617	101.3
	農林	-	-	-
	計	23,790	25,317	106.4
小計	119,311	121,965	102.2	
〈特別会計〉				
下水道事業	3,348	3,464	103.5	
区画整理事業	3,878	1,990	51.3	
小計	7,226	5,454	75.5	
合計	126,537	127,419	100.7	

国補公共事業に284億

茨城県最終補正案 冠水・落石対策を推進

茨城県は令和元年度の最終補正予算案をまとめました。国補公共事業は道路の冠水・落石対策、河川の洪水対策、土地改良事業などに284億4500万円を盛り込んだ。新規では、産業技術イノベーションセンター施設整備事業に1億6500万円を計上しました。

国補正関連では、公共事業の追加で道路の冠水対策・落石対策、河川の洪水対策、土地改良事業などを進めます。

地方創生拠点整備交付金活用事業では、フラワーパークのリニューアル工事などに18億円。

新規の産業技術イノベーションセンター施設整備事業は、宇宙分野などに用いられる先端的な材料の開発に向け、既存施設を改修します。

土地改良事業は、水田の大区画化・汎用化、畑地の高機能化などに21億3200万円を計上しました。

令和元年度3月補正 公共事業費 内訳表

国補

(単位：百万円)

区分	補正前 (A)	3月補正額 (B)	計 (A+B)
土木	108,374	24,411	132,785
産業	3,037	▲ 190	2,847
農林	20,568	4,224	24,792
計	131,979	28,445	160,424

県単

(単位：百万円)

区分	補正前 (A)	3月補正額 (B)	計 (A+B)
土木	25,849	▲ 551	25,298
産業	300	—	300
農林	1,684	33	1,717
計	27,833	▲ 518	27,315

合計	159,812	27,927	187,739
----	---------	--------	---------

(注) 特別会計、企業会計を含む。

小学生が工事現場見学

常総国道事務所と開催



参加した児童たちと記念撮影

本会では国土交通省常総国道事務所と共に、小学生の工事現場見学会を2月18日に開催しました。国道6号牛久土浦バイパスつくば地区地盤改良工事の現場で、参加したのは土浦市立右舂小学校の5年生43人です。

バックホウや高所作業車に試乗したり、ミニ地盤改良機（ラジコン）の操作体験をしたり、地盤改良で使用した土を触り、実際に使用した測量器械をのぞいたりして、ものづくりの現場を体験してもらいました。

特にバックホウの操縦体験は人気で、「レバーを操作すると動くところが楽しかった」と喜んでいました。

4月から月2回 一斉休工です

「休活」しよう

思いきって 休みがあれば

県内公共工事 一斉休工日

第2・4 土曜日

令和2年4月～令和3年3月

※第2土曜日の場合、休工日が増えます。

一般社団法人 茨城県建設業協会
http://www.ibaken.or.jp/

ちよつと言

新型コロナウイルス感染症の影響が広がっています。現場でも対応に気を使われているところもあるかと思います。国土交通省では、受注者の申し出がある場合、一時中止や工期延長等の措置を行うことを周知しています。今後も、でき得る対策を行うとともに、一日も早い収束を願っています。

(1)